

みつけばルームの利用者について ～ 当事者スタッフの視点から～

みつけばルーム
コーディネーター 綿貫愛子





利用者の様子 - 1

興味のあるワークショップで、みんなと盛り上がる
ところがいい



平成28年度 事業報告書
利用者アンケートから引用



生活に役立つ+ のスキル
や知識を身につけられる

いろいろな人の意見を
聞いたり、見たりすることで、
想像の幅が広がった

自分の思っていることを
みんなの前で表現できる
ようになった





利用者の様子 - 2

いろいろなことにチャレンジするようになったAさん

ふつうの気持ちが自然に湧いてきたBさん



いろいろなことにチャレンジするようになったAさん

対人緊張が高く、
表情も固い。

興味の幅が狭く、
それに合うWS
のみに参加する。

利用初期



笑顔が増え、自分
から積極的に他者
に話しかける。

さまざまな分野
のWSに参加する
ようになる。

利用から6か月



ありのままの自分
を認め、表現する
ようになる。

WS以外に自発的
なグループ活動
を始める。

最近

いろいろなことにチャレンジするようになったAさん

- Aさんは、アンケートに「長期休みは家で一人にいるよりもいろいろな経験ができて楽しい」「いろいろなことにチャレンジしてみたいと思った」と回答した。
- 表情や行動、衣類、持ち物などに自分らしさが表れるようになっていった。
- 最近、学校のレポートを見せてくれた。「他の人にどう思われても、自分が好きなことをするのはいいこと」。

ふつうの気持ちが自然に湧いてきたBさん

不安が高く、
ことばが出にくい。
過剰適応。

さまざまな分野
に興味がある。
少しずつ参加。

利用初期



がんばりすぎずに
参加する。

WSで自分を表現
する。

WSの参加回数が増える。

利用から6か月



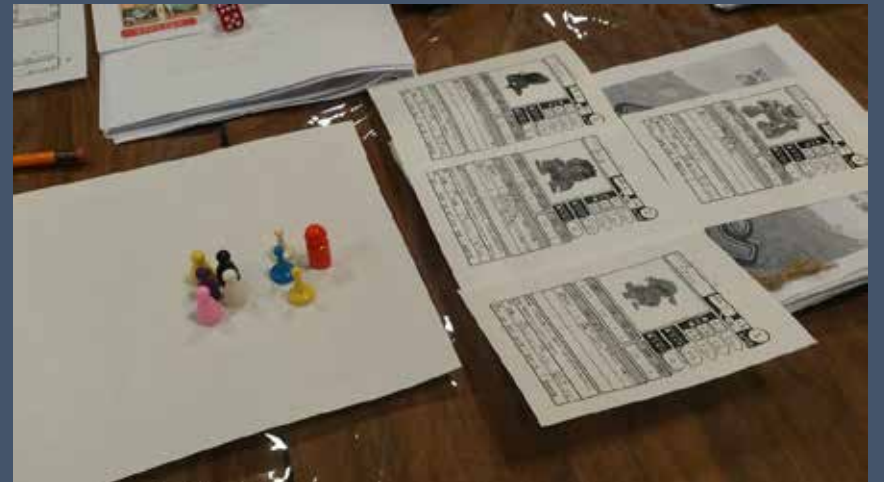
自己表現をする。
WSでの経験を
絵に描いてくれる。

家でしている趣味
を、みつけばでも
行う。

最近

ふつうの気持ちが自然に湧いてきたBさん

- Bさんは、アンケートに「ふつうの気持ち（緊張しまくるわけでもダラけまくるわけでもない感じ）ってこんな感じなのかなーっていうのと、絵を描きたい！って気持ちが自然に湧いてきたのがよかった」と回答した。
- 自分の趣味を行える、安心安全に感じられる場所が増えた。
- みつけばルーム以外の場所でも、「居場所」を築き始めた。





当事者スタッフの視点から - 1

みつけばルームのよいところ

- ・興味関心もてるプログラムで、学んだり、遊んだりできる。
- ・来所は日時が決まっていて予約制なので、安心できる「居場所」になっている。
- ・音声言語以外に、自分を表現する方法や機会がある。
- ・作品づくりなど具体的な対象があると、コミュニケーションしやすい。
- ・スタッフと利用者は、感覚や思考、経験が似ているので、一緒に活動したり、サポートしたりしやすい。



当事者スタッフの視点から - 2

青年期における発達障害支援について

- ・発達障害特性のある者にとって、好きな物事は大切なことばであり、心の支えである。生きがいでもある。
- ・Kanner(1971)から、自閉症者の社会参加には、青年期に自発的に動機づけられることが大切であると考えられる。

自分らしく生きてほしい。本人の興味関心を大切にして、社会参加へのモチベーションやその力を育ててほしい。

